

令和6年度第2回鹿児島県学校部活動地域連携等推進協議会 協議概要

1 開催期日

令和7年2月5日（水）午前9時から正午

2 開催場所

白波スタジアム 会議室

3 会次第

(1) 開会

(2) 講話 「部活動地域連携の現状と課題」

京都産業大学現代社会学部健康スポーツ社会学科 與儀幸朝 教授
（前 鹿児島県学校部活動地域連携等推進協議会 委員長）

(3) 報告事項

ア 運動系部活動について

(ア) 県の取組状況

- ・ 対面やオンラインなどによる説明等を行った会議等の報告
- ・ 令和7年度の市町村や地区における研修会等で要請があれば説明を行う旨連絡

(イ) 令和6年度の県内市町村における取組状況について

- ・ 部活動の地域移行を受けた各市町の取組概要の説明

(ウ) 令和6年度 国の事業を使った実証事業の状況について

イ 文化系部活動について

(ア) 県の取組状況

(イ) 令和6年度の県内市町村における取組状況について

ウ 令和7年度地域スポーツ・文化活動推進事業に係る意向調査結果

エ 部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行と地域スポーツ環境の整備に関する今後の方向性（スポーツ庁からの情報提供）

オ 令和6年度における部活動に関連する体罰等について

(4) 協議事項

ア 協議会委員（団体）に対する市町村からの意見・質問

イ 関係団体における現状や課題

(ア) 県中学校体育連盟からの報告

(イ) 県中学校教育研究会音楽部会からの報告

ウ 分科会

(ア) 運動系部活動

- ・ 県中学校体育連盟の取組について

(イ) 文化系部活動

- ・ 文化系部活動における取組と課題について

(5) 総括

京都産業大学現代社会学部健康スポーツ社会学科 與儀幸朝 教授

(6) 閉会

4 講話

「部活動地域連携の現状と課題」

京都産業大学 現代社会学部 健康スポーツ社会学科 與儀幸朝 教授

- ・ 地域連携・地域移行のメリット・デメリットについて
- ・ 地域連携・地域移行の課題について
- ・ 他県自治体における状況について
- ・ 社会環境の変化と子どもの体力の関係について

5 報告概要

(1) 運動系部活動について

ア 県の取組状況

- ・ 令和6年度に対面やオンライン会議等にて事業説明等を実施

イ 令和6年度の県内市町村における取組状況

- ・ 令和6年10月に県内全市町村に対して行った調査の結果について
- ・ 部活動の地域移行を受けて発足したクラブチームにおける運営主体、主たる指導者について
- ・ 各市町村における令和6年度の協議会開催状況について
- ・ 各市町村における学校管理職に対する説明状況について
- ・ 地域移行したクラブにおける参加費用について
- ・ 経済的困窮世帯への支援について

ウ 令和6年度 国の事業を使った実証事業の状況

- ・ 鹿児島市，いちき串木野市，枕崎市，南さつま市，出水市，薩摩川内市，長島町，鹿屋市，奄美市，知名町，与論町の11市町で国の事業を使った実証事業を実施。
- ・ 計画では，11市町において56校123の部活動を地域に移行することを目的として取組を推進。

(2) 文化系部活動

ア 県の取組状況

- ・ 令和6年度の国の事業を使った実証事業は，鹿児島市，いちき串木野市，南さつま市，鹿屋市，与論町の4市1町で実施。

イ 令和6年度の県内市町村における取組状況

- ・ 鹿児島市教育委員会の取組についての発表

(3) 令和7年度地域スポーツ・文化活動推進事業に係る意向調査結果

- ・ 県内市町村の令和7年の意向として，実証事業は運動系部活動に12市町，文化系部活動に6市町，部活動指導員の配置は運動系部活動に24市町，文化系部活動に5市町が実施の意向を示している。

(4) 部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行と地域スポーツ環境の整備に関する今後の方向性（スポーツ庁からの情報提供）

- ・ 国は，「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議」及び，その下に，運動系・文化系それぞれのワーキンググループを設置し，会議を重ねている。
- ・ 「地域移行」という名称は「地域展開」に変更される。

6 協議事項

- (1) 協議会委員（団体）に対する市町村からの意見・質問
 - ・ それぞれの団体において話題にさせていただくよう依頼。
- (2) 関係団体における現状や課題
 - ア 県中学校体育連盟から
 - ・ 令和5年度から認めている中学校総合体育大会におけるクラブチームの参加に関する説明及び課題とその対応を進めている。
 - イ 県中学校教育研究会音楽部会から
 - ・ 音楽系については、進捗度合いが低く、それぞれの市町村の状況を現場の教師が理解していない。
 - ・ 活動場所や楽器の管理を考えると、学校が中心となる。
- (3) 分科会（運動系部活動・文化系部活動）
別紙参照

第2回鹿児島県学校部活動地域連携等推進協議会
「5 協議事項 (3) 分科会」 協議内容

令和6年2月5日

【運動系部活動】(参加者：古梶委員，寺原委員，肥後委員，中野委員，吉岡委員，中島委員(代)，
徳田委員)

- 県中学校体育連盟の取組について
 - ・ 別紙資料の2頁目，水泳のクラブが2チームしかない。水泳クラブの指導者は，スイミングクラブの指導ができないので，中体連の大会は，教員に引率してもらっている。バドミントンと柔道がクラブが多い。
 - ・ クラブチームが立ち上がってきている段階である。教員の指導では，物足りない選手・指導者もいる。そこについては，勝利至上主義のクラブも出てくる。やはり，カテゴリー別のクラブが必要。
 - ・ 4月10日までにクラブが申請する。競技団体が認めたら，中体連が認める流れとなる。競技団体の登録も必須となる。
 - ・ 兼職兼業の教職員は，中体連の大会では，地域の指導者が引率できる。兼職兼業での立場で，引率した際は，教員の立場ではない。その際，年休での引率となる。
 - ・ 大会運営は，クラブが多くなると，平日に開催を増やしてほしいという意見もある。教員は，休日の大会の方が引率しやすい。
 - ・ 中体連の取組等を市町村の担当が説明するが，校長や教職員が十分に理解していない。結果，保護者も十分に理解していない。
 - ・ 私立の中学校は，どのような反応か。
→ 特になし。
 - ・ 高校合格後の体験入部は，どうなるのか。また，生徒の推薦や特待の話を10月以前にクラブの指導者と高校の指導者が話を進めている現状がある。中学校を挟まない状況で。

【文化系部活動】(参加者：摺木委員，上久保委員，永井委員，川上委員，水島委員)
※ 数字は発言順

- 1 県中学校教育研究会音楽部会長 上久保委員
(地域移行に関するアンケート(対象：中学校音楽教諭，回答：32人)から)
 - ・ 地域移行について，「知らされていない」の回答が19人(約59%)であった。このことから学校長にも知らされていない可能性があるのではないかと。
 - ・ 地域の動きが分からず，顧問等が不安になっている状況にあるのではないかと。
 - ・ 地域移行への問題点として，楽器や活動場所，生徒指導，指導者の確保等の意見があった。また，地域行事や学校行事等との兼ね合いを心配している状況がある。
 - ・ 地域移行について，7人(約22%)が「必要ない」の回答であった。また，校内施設を利用する場合のセキュリティの問題や人事異動等による指導者の変更により，活動内容が変更してしまうケースへの対応への意見があった。
- 2 県吹奏楽連盟理事長 永井委員
 - ・ 課題として，金銭面や指導者，活動場所，楽器の管理等の意見がある。
 - ・ コンクール等では，約200団体(約80%)の出場しており，多くが一つの学校で編成されている。他県と比べて，鹿児島県は少人数編成の出場が多く，単独校で出場したい学校が多い状況にある。合同で出場している団体もあるので，よいモデルとして周知を図りたい。
 - ・ 全国的には，愛知県や千葉県などで地域移行が進んでいる状況がある。
- 3 県中学校教育研究会音楽部会長 上久保委員
 - ・ 休日に活動するのは吹奏楽部が多く，楽器の管理等のこともあり，地域移行が進みにくい状況にある。
 - ・ 熊本市は地域移行ではなく，部活動に地域を連携させる手立てを講じており，人材バンクによる人材確保などにも取り組んでいるので参考になる。この手立ては，スポーツ部でも音楽部でも使えるのではないかと。しかし，この手立てを保護者や生徒がどう捉えるかの把握が必要である。